地域連携センター報

第 18 号

(2025 年度)

Seisen University

Community Outreach Center

SEISEN UNIVERSITY
清泉大学
清泉大学短期大学部

目　次

巻頭言　岡本　かおり… 1

1.　地域連携センター活動報告　岡本　かおり… 2

(1)地域連携センター運営委員会　事務局… 2

(2)長野市連携事業　事務局… 4

(3)千曲市連携事業　事務局… 6

(4)信濃町との連携事業　事務局… 7

(5)長野商工会議所との連携事業　キャリア… 8

(6)長野信用金庫との連携事業　事務局… 8

(7)長野県議会との連携事業　事務局… 9

(8)長野犯罪被害者支援センターとの連携事業　事務局… 9

(9) NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクトとの連携事業　事務局…10

(10)アルピコホールディングス株式会社との連携事業　片瀬　拓弥…11

(11)小川村・小谷村との連携事業　森本　佑子…11

(12) 地域連携プロジェクト～地域活動支援～

①千曲市子育て支援・発達支援連携プロジェクト　山崎　晃史…13

②プレパパ、プレママのペアレンティングセミナー　石川　智恵…15

③おれんじプロジェクト　溝口　智鶴…17

④信濃町における「癒しの森」体験および調査実習　田仲由佳・寺門正顕…18

⑤生と性の正しい知識を身につけよう！広げよう！　生井裕子…19

⑥地方における途切れない犯罪被害者支援をめざした
心理教育、広報啓発活動の取組み　岡本　かおり…21

⑦令和 6 年能登半島地震による被災者へのボランティア　齋藤　正子…24

⑧若者が安心できる居場所ガイドブック制作　武田　るい子…28

2.　生涯学習部門活動報告　事務局…30

(1)公開講座

①世界の歴史と文化　村田　信行…31

②趣味から始めよう！生成 AI ワクワク活用講座　片瀬　拓弥…32

③生涯学習特別講座

『一人でも多すぎる～性暴力を許さず明るい未来へ～』　岡本　かおり…34

(2)出張講座

①笑顔で築く信頼関係　塚原　成幸…36

②社会問題とその解決を考えるストリートチルドレン　小松　仁美…37

(3) 生涯学習講座実施状況

①公開講座実績一覧　事務局…40

②出張講座実績一覧　事務局…44

3.　地域活動部門活動報告

(1)ボランティア活動報告　事務局…45
(2)Let’s Try ボランティア活動支援　事務局…46
①活動報告　チャイルドラインながの受け手ボランティア　……47
②活動報告　住吉まつり　……48
③活動報告　犬と歩けば。。。プロジェクト　……49
(3)ボランティア活動参加状況　事務局…50
(4)ボランティア活動実績　事務局…53

巻頭言

地域に集う人々が出会う場として

地域連携センター長　　岡本　かおり

いま、私たちの社会は激しい変革の渦中にあります。科学技術の進歩は凄まじく、いつの間にか日々の教育や業務にAIが入ってきて私たちの生活を大きく変えつつあります。本学について申しますと、2025年度4月から男女共学化に加え、人文社会科学部の設立があり、次年度には農学部の開設が控えているなど、ダイナミックな組織再編成の真っ只中です。

このようにシステムや組織が効率化・最適化されていく時代ではありますが、だからこそ、地域連携センターが変わらずに大切にしたいことがあります。それは、本学の学生、教職員が地域に出かけて行き、地域の皆様が本学にお越しいただく機会を作るなどして、学びと交流の場を創生し続けることです。

人々が出会い、同じ場所で時を共にし、新しいことを学び、培ってきたものに気づく。このような学びのスタイルは、どれほどテクノロジーが進化したとしても変わらないでしょう。そこに人が集い学ぶ経験は大学ならではものとなっているはずです。

さて、センターが例年行っている活動として、「公開講座」や「出張講座」、「生涯学習特別講座」、そして学生による「ボランティア活動」などがあり、本年度もこれまでと同様に展開することができました。さらには、各学部の特色を活かした講座や地域の団体・自治体等との連携協定を活かした活動も多く行われました。

このような活動が展開できたことを大変有難く思います。これは地域の皆様が毎年のように地域連携センターに声をかけ、足を運んでくださったお陰ですし、学生や教職員が地域で活動することに意欲旺盛である証です。ぜひ、ページをめくって、それぞれの活動を知っていただけますと幸いです。

さまざまなことが変わる現代だからこそ、私たちは地域と人々をつなぎ、出会う場としてあり続ける必要を感じております。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

１．　地域連携センター活動報告

岡本　かおり

今年度（2025 年度）は、本学が策定した第４期中期計画（2025～2029 年度）の初年度にあたる。本センターが中期計画において掲げた主な目標は、以下の三点である。①建学の精神に基づき、本学の使命である「他者のために自分を役立てる」機会を提供すること、②信州の地域社会における「人間教育」を担う自覚の下、地域に根差した教育実践・研究活動を推進すること、③地域の今日的課題やニーズに応えるため、生涯学習や卒後研修を整備すること。いずれも、本学がこの地に存在する意義を明確にする重要な目標である。　具体的な活動を振り返る前に、前年度までの状況に触れておくと、新型コロナウイルス感染症が拡大した 2020 年度以降の数年間に及ぶ苦境は、昨年度（2024 年度）以降は和らぎ、多くの活動がコロナ禍以前の勢いを取り戻したといえる。

さて、センターの主要活動であり、本学の地域貢献として定着している公開講座は、年間を通じて実施された（春学期：全 26 講座・受講者 263 名、秋学期：全 20 講座・受講者 235 名）。講座数、受講者数ともに昨年度とほぼ同水準を維持しており、今後も地域住民に魅力ある講座を企画し、安心して学べる機会を提供していく方針である。さらに、長野県および隣県の教育機関（高校・中高一貫校を除く）、地方自治体、公的機関・団体・施設などを対象とした出張講座も全 12 講座実施した。本学の通常の学びを地域に届ける機会として、一定の認知が得られていると考えられる。また、特筆すべき点として、学生のボランティア参加者数が昨年度の 245 名から今年度は 356 名へと大幅に増加した。「他者のために自分を役立てる」「人間教育」「地域の課題やニーズへの対応」という目的は、一朝一夕には達成できない大目標である。しかし、この 1 年を振り返ると、本学の学生・教職員が地域に赴き、また地域の方々を学内に迎えて、多くの経験を共有できたことが窺える。次頁以降に、その他の活動を含めた詳細を報告する。

(1)　地域連携センター運営委員会

本学の第 4 次中期計画に掲げる目標の検討および着実な実行を図るため、2025 年度は地域連携センター運営委員会を計 10 回開催した。各回の委員会では、事業の進捗状況の共有や課題の整理、今後の方向性について活発な意見交換を行い、計画の具体化と改善に努めた。

2025 年度は清泉大学・清泉大学短期大学部となって最初の年度であり、地域連携センターにとっても節目の年となった。このような中、春学期・秋学期を通じて、「地域活動部門」（ボランティア・イベント・地域との交流活動など）と「生涯学習部門」（生涯学習講座・公開講座・講演会など）の 2 部門において、計画的に事業を実施した。

○地域連携センターの主な事業

① 地域との連携拡大および新規事業に関わる事業

上記連携団体との連携協定に関する事業、及び地域の課題解決・情報交換・交流を積極的に行う。

② 地域連携プロジェクト

地域連携活動の推進のために「学部・学科の教育・研究と地域が有機的につながり地域貢献を推進すること」として、教員と学生が協働する活動費の一部を支援する事業。

③ 学生のボランティア活動に関わる事業

地域から寄せられたボランティア募集情報を学生に提供。また、学生の自主的な地域活動を支援する目的で活動資金の一部を支援する助成金制度「Let’s Try ボランティア支援」の募集及び調整を行う。

④ 生涯学習講座事業

公開講座・授業開放・出張講座・映画上映会、講演会等の企画・情報発信・受付・実施等広く市民に提供する各種講座を開講する。

なお、地域連携センターが通常担っている主な事業とその実現のために連携協定を締結している団体は以下の通りである。

○連携協定を締結している団体

・自治体：「長野市」「千曲市」「信濃町」「小川村」

・その他の団体：「NPO 法人夢空間松代のまちと心を育てる会」
「NPO 法人長野市障がい者スポーツ協会」
「長野商工会議所」
「ながの農業協同組合（JA ながの）」
「長野赤十字病院」
「長野信用金庫」
「長野県議会」
「特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト」
「長野市ガイド協会」
「認定特定非営利活動法人長野犯罪被害者支援センター」
「公益財団法人ながの観光コンベンションビューロー」
「アルピコホールディングス株式会社」

(2) 長野市連携協議会

長野市との連携協議会は、昨年に続き 2025 年度の連携事業実績の確認と次年度新規連携事業の提案は書面にて行われた。

2025 年度継続を確認した連携事業

〖テーマ研究型事業・人づくり〗

〈短期大学部〉

1．公共保育所等におけるボランティア事業
2．幼児教育推進のための事業
3．児童館体験学習事業

〈大学〉

1．教育臨床演習事業
2．心の教育推進(教育支援センター)
3．学習チューター
4．ライフデザイン形成支援事業
5．男女共同参画啓発講座の開催
6．長野市の公共施設を考える学生ワークショップ
7．多職種連携と地域フィールドワーク

〈全学科〉

1．市立長野中・高との連携
2．地域課題解決のための官学共同研究事業
3．就業体験生(インターンシップ生)事業
4．清泉大学公開講座
5．清泉大学出張講座（公民館講座/生涯学習センター講座/市職員のための夜間講座）

『地域振興、相互協力・協力事業』

〈大学〉

1．移住・定住情報発信事業
2．長野市立博物館における文化財レスキューおよび長野市内における仏教美術資料調査事業
3．スマートシティ NAGANO 推進事業
4．長野市復興祈念事業

５．もんぜんパートナーシップでの長野駅東口周辺の美化活動（看護学部）
６．伝統文化の継承イベントの運営支援
７．休日マタニティーセミナー
８．若手 IT 人材育成プロジェクト

〈全学科〉

１．放課後子ども総合プランのアドバイザー登録
２．スポーツ大会運営支援
３．選挙関連業務への協力
４．小中学生向けキャリア教育
５．附属機関への参画等
７．伝統文化の継承
８．若者向けゲートキーパー講座
９．市民と議会の意見交換会
10．デジタルデバイド対策事業（スマートフォン教室）
11．友好都市交流

長野市課題解決 PBL

中国・石家庄市の研修生との交流

議員と話そうカフェトーク

長野市長と学生の意見交換会

(3)　千曲市連携協議会

2025 年 5 月に千曲市との連携協議会を対面で行い、継続する事業と新規に連携を希望する事業の確認を行った。千曲市での設置が構想されている農学部との連携についても触れ、今後はより一層連携を深め、地域が抱える様々な課題に対して、双方で協力しながら取り組んでいくことを確認した。

2025 年度継続を確認した連携事業

１．企業・自治体訪問事業
２．インターンシップ事業
３．ボランティア事業
４．清泉大学出張講座
５．千曲市小学校の英語充実ボランティア
６．保育士の確保
７．　戸倉上山田温泉まちづくり事業
８．　姨捨棚田及び稲荷山を活用した地域連携プロジェクト

2025 年度地域連携プロジェクトで実施した連携事業

１．　千曲市子育て支援・発達支援連携プロジェクト

2026 年度に新規連携を希望する事業

１．　姨捨棚田保全活用事業

ものづくりフェア千曲

(4)　信濃町との連携事業

信濃町と相互の発展に資するための包括連携協定を締結し、12 年目となる 2025 年度に連携した事業は以下の通りである。

清泉大学心理コミュニケーション学科の授業連携
「心理基礎演習Ⅰ」（田仲）「心理基礎演習Ⅱ」（寺門・田仲）
・心理基礎演習Ⅰでは、心理コース 2 年生が、信濃町が展開する「癒しの森」事業である森林セラピーに参加し、メディカルトレーナーの指導の下、森林セラピーの効果や対人コミュニケーションのあり方を学んだ。
・心理基礎演習Ⅱでは、同受講生が信濃町の観光・商業施設を訪問し、職員の方々から施設の概要について説明を受けた。そこで得られた知見をもとに、信濃町の活性化を目的とする社会調査を実施し、得られた研究成果を発表・報告した。
　受講した学生は、信濃町の魅力と課題、活性化に関する理解を深め、地域貢献への意識を高めることができた。

（５）長野商工会議所との連携事業

長野商工会議所と 2015 年に地域の産業振興に貢献する人材育成を目的に包括連携協定を締結してから 11 年目となる。

2025 年度は、連携事業として「キャリア・デベロップメント展開」の授業の中で「企業人と女子学生との座談会」を地元の 15 事業所 25 名の協力を得て実施した。仕事のやりがいや生き方、地域との繋がりにつて積極的に質問や意見交換を行い、学生はキャリアについての理解を深める貴重な機会となっている。2 月には大学 2 年生が 1 週間のインターンシップ（就業体験実習）を行い、実習学生は地域振興や事業内容の理解のほか、社会人として求められる適性を知り職業観を高める貴重な機会となった。

また、1 月に地元の西宮神社の初えびす祭り開催時、商売繁盛を願う「お種銭貸出し」を巫女として 3 名の学生が参加した。えびす様の御霊を込めたお種銭を貸出し、1 年商売繁盛に励み、家内安全、開運招福などご利益をいただき、翌年の参拝時にお返しする習わしで、地元で商売に営む方々を始め多くの参拝客に長時間対応し地域理解を深めた。

ひきつづき、長野商工会議所と連携して産業振興にも貢献できる人材育成をしていきたい。

（６）　長野信用金庫との連携事業

長野信用金庫と 2019 年に包括連携協定を締結してから 7 年目となる。本事業は、長野信用金庫と本学が、産業、文化、教育、学術等の分野における資源、研究成果等の交流、その他の連携及び協力を図ることにより、地域産業・観光の振興、教育研究の充実及び人材の育成を通して地域の発展に寄与することを目的としている。

2022 年度からは地方金融機関の社会的・経済的役割を理解し、地域に根差した中小企業と学生が出会うことを目的に「長野しんきんビジネスフェア」に毎年参加している。2025 年度は「第 22 回長野しんきんビジネスフェア 2025」に本学ブースの出展と、就職やインターンシップなどに向けて地元中小企業の魅力理解と新たな出会いの場として学生が見学参加させていただいており 71 名が参加した。うち 1・2 年生の参加が 29 名あり、早期（低学年）から職業選択の視野や職業理解をより広げる機会とした。川北ゼミ（公共政策・まちづくり）の 3 年生が本学のブースの運営を担当して、大学や学科での学びについてブース訪問者に説明を行った。また、当ビジネスフェアの出展企業と連携したスタンプラリーを企画し、地元中小企業と若者との出会いづくりに取組んだ。

また、就職に向けて職業選択の幅を広げるきっかけとする「業界・職業研究セミナー」（10 業種）を学内で実施しているが、実際の仕事場を訪問する「長野信用金庫本店営業部

見学ツアー」を実施。業界および仕事内容の説明と実際の仕事体験の場を提供いただいている。

『しんみせチャレンジ』では、文化学科の教員１名が、スタートアップ資金最終選考委員として参加した。同じく、起業を予定している人や起業して５年以内の人を対象に、起業・創業する上で必要となる実践的な知識を学ぶ『創業カレッジ』では、文化芸術学科から３人、文化学科から４人が参加し、創業予定者や事業主との意見交換に取り組んだ。学生が創業予定者や事業主との意見交換を通して実践的な学びを得ることで、地域経済の活性化と人材育成の双方に寄与している。

人材育成と地域経済の活性化を結ぶ意義ある連携事業として成果を上げており、今後も相互の強みを活かしながら、地域に根差した持続的な取り組みを一層推進していきたい。

（７）長野県議会との連携事業

大学及び短大の持つ研究成果を地域課題の解決に結びつけ、県民のニーズに合った政策形成や調査・研究を進め、魅力ある地域づくりの推進や人材育成に資するに取組を行うことを目的として、令和２年１０月２４日に長野県議員会館において、長野県議会と包括連携協定を締結した。令和８年度は「こんにちは県議会です」がオンラインで実施されなかった。

（８）長野犯罪被害者支援センターとの連携

2021 年 7 月 29 日に長野県犯罪被害者支援センターと、長野県における犯罪被害者等の支援環境の向上や啓蒙活動等を目的とした、連携・協力に関する協定を締結した。

2025 年度は心理コミュニケーション学科専門演習科目で 11 名の学生が地域連携プロジェクト「二次被害の防止のためにできること：地域で回復をサポートする」に取り組み、

同センターの相談員、長野県警察本部被害者支援室、長野市男女共同参画センター女性のための相談事業の各担当者にインタビューを行い、アドバイスをいただきながら、広報啓発資材（チラシを折り込んだポケットティッシュ２種）、ステッカー１種、A4 クリアファイル１種）を作成し、学内を中心に配布した。本取組は、大学が地域と関係機関をつなぐ役割を果たしながら、学生の実践的な学びの機会を創出し、犯罪被害者等への理解促進と二次被害防止への寄与が期待できる。

（９）NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクトとの連携

特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト（2022 年 12 月 8 日連携）と連携している。

・長野市の緊急時における子ども支援ネットワーク構築にあたり、「緊急時の子どもへの対応ガイドライン」の作成に協力した。2023 年度より関係機関との協議や研修を重ね、作成に至った。ガイドラインには、特別な配慮を要する子どもへの支援の一環として、医療的ケア児への対応も盛り込まれた。

・長野駅東口キャンパスにおいて子育て世帯向け防災イベント「みんなで防災ヒーローを目指そう！」を共催した（主催：こどもの城いきいきプロジェクト）。看護学部学生５名と教員が実行委員会として参画し、子ども向け防災体験ブースの運営や、電気自動車を活用した災害時の電源確保の紹介等を行った。当日は 110 名が参加し、地域の子どもおよび家族の防災意識の向上を図る機会となった。

（10）アルピコホールディングス株式会社との連携

2025 年 4 月 11 日に教育、学術、産業等の分野で相互に協力し、人材育成と地域の発展に寄与することを目的としてアルピコホールディングス株式会社と連携協定を締結した。学生に対し国家資格「二等無人航空機操縦士」の取得支援プログラムを提供し、実践的な技能習得を促す。今後は資格の単位化検討に加え、農業・防災などドローンを活用した地域課題解決や、同社とのインターンシップを含むキャリア支援など、多角的な連携体制を構築していく。本事業は、大学と企業が協働することで双方に新たな学びと価値を創出し、地域社会へと還元が期待できる取り組みである。

（11）小川村・小谷村との連携

2010 年に小川村と地域産業の振興・教育文化の振興・人材育成等を目的とした連携協定を締結している。観光・交流人口について考えるゼミ活動の一環として小川村を訪問し、行政担当者へのヒアリングを通じて空き家対策についてお話を伺った。学生は制度設計や支援の実際を学ぶことで、政策と地域の関係を考える視点を養い、地域課題への理解を深めることが出来た。

小谷村では、行政関係者及び移住者に移住定住支援の取組や課題をヒアリングさせていただいた。伝統文化や祭礼の継承活動にも触れ、地域コミュニティの維持と観光・生活の両立に向けた実践を学んだ。活動後には学生の気づきや提案を報告させていただいた。住民の方々の思いや生活に触れることで、当事者の視点から地域を捉える大切さを実感する機会となった。観光分野では当事業が初めてであり、地域にとっては新たな視点の共有や、将来の担い手育成への期待につながり、大学の社会的役割を担うための一歩として位置付けられる取り組みとなった。

（8）地域連携プロジェクト

地域連携プロジェクトは、清泉大学・清泉大学短期大学部における教育・研究活動と、学生および地域との有機的な連携を促進し、地域貢献の推進を図るとともに、地域連携事業開発に関するノウハウを本学組織として蓄積し、今後の地域連携活動の充実につなげることを目的とした教員向けの助成金事業である。

本事業は、自治体、企業、NPO 等の地域団体と協働して実施する連携事業を対象とし、営利に偏ることなく、地域の振興および発展、ならびに教育・研究の充実に寄与する活動であることを条件としている。あわせて、学生とともに取り組み、地域社会に貢献する人材の育成に資する活動であることを要件としている。

2025 年度は、9 件のプロジェクトを採択し、8 件実施された。

	プロジェクト名	担当教員	連携先
1	千曲市子育て支援・発達支援連携プロジェクト	山崎　晃史	千曲市
2	プレパパ、プレママのペアレンティングセミナー	石川　智恵	長野市、特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト
3	おれんじプロジェクト	溝口　智鶴	長野市、長野市地域連携推進員、長野市と協定連結の企業
4	信濃町における「癒しの森」体験および調査実習	田仲 由佳 寺門　　正顕	信濃町
5	生と性の正しい知識を身につけよう！広げよう！～地域への発信、地域の仲間作りを目指して～	生井　裕子 柴田　　牧	長野保健福祉事務所
6	地方における途切れない犯罪被害者支援をめざした心理教育、広報啓発活動の取組み	岡本　かおり	認定特定非営利活動法人長野犯罪被害者支援センター
7	令和 6 年能登半島地震の被災者へのボランティア	齋藤　正子	長野県社会福祉協議会 石川県能都町社会福祉協議会 能登町地域ささえあいセンター災害 NGO「結」
8	若者が安心できる居場所ガイドブック制作	武田　るい子	長野の子ども白書制作委員会 NPO 法人場づくりネット ほか

1. 千曲市子育て支援・発達支援連携プロジェクト

人間学部 心理コミュニケーション学科 山崎 晃史

1. 活動目的

本プロジェクトは、千曲市における乳幼児期、学童期に関わる地域連携に資することを目的として、2023 年度から 3 年間継続して実施した。 具体的には、3 年生の専門演習（ゼミ）を通じて、学生が千曲市の子育て支援の場でフィールドワークを行い、関係機関の特徴や地域課題を把握する。そのことを関係者に向けてフィードバックし、地域連携の契機とする。

2. 方法・内容

千曲市の所管部署（子育て支援係）担当者と協議を行い、フィールドワーク先の紹介を得て進めている。

試行的に 2022 年度の専門演習で、稲荷山くるみこども園でのフィールド調査、千曲市役所の保育、保健、子育て支援、障害福祉の各担当者とのオンライン聞き取り調査を行った。市各部署が集合して質問に答えていただいた様子から行政内の連携の円滑さを学生は感じ取っていた。

2023 年度には本学地域連携プロジェクトに採択され、学生が保育所、子育て支援センター、放課後児童クラブ、こども園を訪問して、参与観察とインタビューを行った。子育て支援センターでは、保育士が子どもと遊びながら親の相談に応じ、親同士の支え合いを促していることを把握し、その役割の重要性を肌で感じていた。

2024 年度は更埴子育て支援センター、屋代児童センター（放課後児童クラブ、稲荷山くるみこども園、かみとくま食堂（子ども食堂）においてフィールドワークを行った。また、市役所の紹介で社会福祉法人いなりやま福祉会（障害福祉通所）をフィールドワーク先として追加した。子育て支援センターでは親子への積極的なアプローチよりも「見守り寄り添う」姿勢がポイントであること、放課後児童クラブでは多様な児童一人ひとりに応じた柔軟な対応にポイントがあること、こども園では絵本の読み聞かせや散歩に力を入れていること、子ども食堂では、地域での集う場を創出する目的で行われており、必ずしも貧困の課題に特化したものではないこと、就労継続支援事業所では、地域との交流を図りより良い生活環境を作り出そうとしていることを、当該年度の学生は把握していた。

そして本年度はこれら積み重ねを土台にテーマ別に 3 グループに分かれてフィールド調査を行った。幼児期の支援をテーマとした学生 2 名が更埴子育て支援センター、保健センター等でのフィールドワーク、放課後・余暇の児童支援領域をテーマとした学生 2 名で信州子ども食堂 in 信州でのフィールドワークや市役所生涯学習係への聞き取り調査、不登

校支援をテーマとした学生２名が一般社団法人オレンジファムへの聞き取り調査を行った。ここから、各領域での支援の実態を学生が現場を肌で感じながら把握して整理し、ゼミ内で報告会を行った。

3.　成果または結果

学生は、子育て支援の諸施策を知り、行政担当者、保育者、援助者のきめ細かな配慮と柔らかな姿勢から子育て支援の重要性とそのプロ性を把握した。また、市役所庁舎内にあえて保健センターを置いて、児童福祉の窓口との円滑な動線を確保する住民本位の庁舎設計が、保健と福祉の職員間の連携もしやすくしていることからも多くの気づきを得た。こうした子育て支援の実態と工夫の把握は社会課題を我が事として考える機会となった。以上のことは「ゼミ新聞」の形で学生と共に編集・発行し、成果物として地域関係者に報告した。

第1号　山崎ゼミ　2026年2月20日

三年生専門演習報告

山崎ゼミ新聞

第1号
2026年2月20日
清泉大学人間学部
心理コミュニケーション学科
山崎ゼミ編集

山崎ゼミ千曲市でフィールドワークを展開
心理学を子育て支援・発達支援に生かす

学内制度・地域連携プロジェクトにより人間学部の山崎ゼミ（3年生）では、千曲市内の施設でフィールドワークを2023年から行ってきた。

千曲市の位置

「フィールドワークってなんだろう」編集部

千曲市子育て支援センター訪問

はじめに千曲市役所を訪問

千曲市保健センター

千曲の紹介

長野県北部長野盆地の東側から北側に広がる都市。人口は5万9千人前後、出生数は2024年は288人、高齢者が31～33%をしめる。

ゼミの紹介

成果物　新聞表紙

以上、学生にとっては、社会人となった際に自他の援助要請を促すことに資する潜在的な経験となる。千曲市にとっては学生が市に興味を持つことになり、好印象を周囲に語ったり、住民や労働者として市を支える側に回ったりする可能性を高める。また、大学としても、地域との連携を進めていく契機となる。臨床心理学、コミュニティを専門とするゼミとしては地域の支援力の向上に役立つ必要があり、その契機として機能している。

4.　地域連携事業開発へのモデル事業としての意義と成果について

前述の諸点は短期的には効果がすぐには見えにくいため、長期的視点に立ってゼミとして地道に取り組みを継続していく必要がある。大学と地域の連携を促進していくためには絆が強固になっていくための具体的な活動と時間が必要だと考えられる。本学地域連携プロジェクトはあくまでも初期の立ち上げのきっかけをつくるものであり、モデル事業期間終了後からの展開が肝心だと考えられる。

2.プレパパ、プレママのペアレンティングセミナー

看護学部看護学科　石川　智恵

１．プロジェクト名

プレパパ、プレママのペアレンティングセミナー

２．活動目的

①初めて出産、育児を迎える夫婦が、新たな役割と生活にスムーズに適応するために、出産後の子どものいる生活を具体的にイメージし、どのように生活していくのかを 2 人で考える機会とする。

②同じ状況にある人達との交流を通して、地域における仲間づくりの場とする。

３．方法・内容

１）開催日程

奇数月の土曜日　10 時～12 時 30 分

２）対象

長野市とその近郊に在住の第一子妊娠中の妊婦と夫

３）内容

①先輩家族との交流

先輩パパ、ママの出産・子育て体験談と質問コーナー

実際の赤ちゃんとの触れ合い

②夫婦でペアワーク

出産後の 24 時間の生活を考える。

お互いへの感謝の気持ちと子育てに対する願いを伝え合う。

③演習体験

抱っこ、オムツ交換、着替え、沐浴

４．結果

１）開催日と参加状況

開催日	参加状況
5 月 24 日(土)	妊娠期の夫婦 8 組・先輩家族 4 組
7 月 26 日(土)	妊娠期の夫婦 13 組・先輩家族 3 組
9 月 27 日(土)	妊娠期の夫婦 11 組・先輩家族 3 組
11 月 8 日(土)	妊娠期の夫婦 10 組・先輩家族 4 組
1 月 17 日(土)	妊娠期の夫婦 9 組・先輩家族 4 組
3 月 28 日(土)	妊娠期の夫婦 13 組・先輩家族 3 組

２）セミナーの評価(アンケート結果より)

①セミナーに参加した理由

保健師や妻に誘われて参加した人もいるが、出産後の生活にイメージが持てず、何もかも不安である、出産後の生活を２人で考えたいなど、問題意識を持って参加している人が多かった。

②セミナーの感想

先輩家族との交流や夫婦でのペアワークを通して、夫婦で出産後の生活を具体的にイメージしてどのように生活していくかということを考えるきっかけになっていた。また、夫婦で出産後の生活を話すことでお互いの考えや気持ちを確認し合い、改めて夫婦で向き合う時間を作ることができていた。さらに、他の参加者と話すことで、誰もが不安や悩みを持っていることを知り、共感を得ていた。

５．地域連携事業開発へのモデル事業としての意義と成果、今後の課題について

参加者からのアンケート結果より活動目的が達成されていることがわかり、現在国が推進している妊娠・出産・育児における伴走型支援の一つになり得ることを改めて認識できた。

今年度より長野市との協働事業になり、母子健康手帳を交付する時に本セミナーについて周知してもらえるようになったため、前年度までと比べて参加者数が飛躍的に増加した。休日にセミナーを行うことで夫婦単位の参加が可能となることが、地域住民のニーズに合っていると考える。そのため、本セミナーは地域連携事業開発へのモデル事業としての意義があると考える。

今後の課題として、本セミナーの内容の改善と持続可能なセミナーにしていくための体制づくりが挙げられる。内容の改善としては、研究結果とアンケート結果を踏まえて、効果的な学習プログラムにしていくこと、妊娠期から出産後までの継続的なプログラムにしていくことを検討したいと考える。持続可能なセミナーへの体制づくりについては、来年度以降も長野市との協働事業として運営していくため、参加者数は今年度同様多いことが想像できる。しかし、来年度は地域連携プロジェクトから外れるため、運営のための資金の確保が難しい。運営資金について来年度は個人研究費と長野市からの助成金を活用するが、科研への申請も視野に入れて外部資金の獲得を目指したいと考える。また、現在２名の助産師が中心となり地域の保健師と助産師がサポートに入ってくれている現状であるが、参加者数が増えている現状では対応が困難なこともある。今後も本セミナーを継続するためには、運営スタッフの増員を図る必要がある。本セミナーに賛同してくれる地域の保健師、助産師と共に事業としての体制を整えたいと考える。

3. 清泉大学おれんじプロジェクト

看護学部看護学科　溝口　智鶴

１．プロジェクト名
おれんじプロジェクト

２．活動目的
令和５年６月公布、令和６年１月１日より施行された「認知症基本法」の目的に沿い、認知症の人を含めた国民が個性と能力を発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支えあいながら強制する活力ある社会の実現を推進するために、教育、地域づくり、雇用、保険、医療、福祉その他の各関連分野における総合的な取り組みが求められている。
長野市の企画するイベントへの学生の主体的参加を通し、学生自身の認知症への意識も高めつつ、地域・社会への貢献を目指すことを目的とする。

３．方法・内容
- 認知症月間にあわせた啓発イベント「おれんじミーティング 2025」への参加
（2025 年 10 月 5 日開催, 主催：長野市地域包括ケア推進課）
- 認知症サポーター養成講座の開催
（2026 年 3 月 31 日　清泉大学東口キャンパス）

４．結果・成果
１）おれんじミーティング 2025
参加学生　看護学部４年生６名、３年生２名、２年生１名
人間学部１年生１名、人文社会科学部１年生１名　　計 11 名
本学より、認知症の啓発のためのポスターを拡大しての作成、コーヒー・お茶の提供を行い、ブースの運営や着ぐるみのスタッフの補助、会場の全体的な運営に携わった。認知症をもつ当事者の方やその家族、関心のある市民の方、医療や福祉の従事者、関連企業の方々と直接関わりながら思いを伺ったり、実際に「認知症」への世間一般の関心の高さにも触れる機会となった。一方で、イベントの運営のみで終わってしまい、当事者の方や家族の方との交流機会のもてない学生もいた。

２）認知症サポーター養成講座の開催
参加学生　看護学部２年生 20 名、１年生１名
長野市に要請し、地域包括支援センターより職員２名の派遣を受け、講師をしていただいた。また、若年性認知症コーディネーターの方１名、若年性認知症をもつ当事者の方２名にも来訪いただき、これまでの経験や思いについても話していただいた。
講習を受けた学生は「認知症認定サポーター」となった。
学生からの感想では、内容に対する満足度が高く、これまでの認識や行動について振り返ることができていた。多くの学生は、「その人を尊重する」という視点について語っていた。
また、2026 年度に予定されている認知症啓発イベント等への参加など具体的に行動化を希望する学生もいた。

５．地域連携事業開発へのモデル事業としての意義と成果について
認知症についての啓発は、看護を学ぶ学生だけでなく、幅広い年齢層を対象にしているため、学生の視点での学びや社会活動が今後、長野市という地域全体に大きく寄与するこ

とが期待できる。参加学生の意欲や姿勢から次年度は、企画段階で内容や広報活動までの検討依頼もあることから、年間を通して継続した活動としていく方針である。成果はまだ明確ではないが、多くの学生が医療機関での就職を目指している中で、地域で暮らす方との交流機会やイベント参加を通じた多職種連携の実際に学生の内から接することで今後、ケアの質が高まることが見込まれている。

4.信濃町における「癒しの森」体験および調査実習

心理コミュニケーション学科　田仲 由佳、寺門 正顕

心理コミュニケーション学科心理コース 2 年生約 40 名が，コースの専門導入科目である「心理基礎演習Ⅰ」「心理基礎演習Ⅱ」において，本学と地域連携協定を結んでいる信濃町を題材に，一年を通して一連の学習活動を行った。

春学期の心理基礎演習Ⅰでは，癒しの森事業を展開しているしなの町 Woods Life Community の協力を得て，森林セラピー体験実習を実施した。受講生が現地を訪問し，当該団体に所属する森林メディカルトレーナーを講師として，牡鹿池で森林セラピーを体験した。森の中では，日頃のデジタル環境を離れ，普段眠っている五感をフルに使って森を感じることで，植物や生物の生態を学び，自然の循環を実感することができた。

秋学期の心理基礎演習Ⅱでは，信濃町役場の協力を得て観光施設（黒姫童話館，ナウマンゾウ博物館，道の駅しなの）を訪問し，見学実習を行った。現地にて，各施設の職員から施設の沿革や運営に関する説明を受けた後，展示資料を閲覧した。

見学実習で得た学びをもとに，地域が抱える課題や地域活性化の手がかりを得ることを目的として，グループにわかれて質問紙調査を企画，実施した。得られた研究成果については，発表会で報告するとともに，信濃町への書面を通じた報告を行った。

さらに，同授業において，しなの町 Woods-life community より講師を召喚し，アロマ講座「信濃町からの香り」を開催した。講演では，アロマの歴史や効果，活用場面についてレクチャーを受けた。また，ワークショップでは，クロモジの蒸留のデモンストレーションを見るとともに，香木の枝を使ったサシェ（香り袋）作りやアロマスプレーの作成を行った。

本プロジェクトにより，次のような成果が得られた。

受講生は，信濃町での森林セラピー体験やアロマ講座の受講を通して，森林メディカルトレーナーから対人交流や援助の視点を学びとり，心理学が社会の中でどのように活かされ

ているかを理解することができた。活動の様子を本学の HP で発信することで，広報効果があったと考えられる。また，グループで質問紙調査を実施することで，心理学の研究法の一つである調査法を修得し，地域が抱える課題や地域活性化の手がかりとなる知見を得た。

上記の一連の取り組みを通して，受講生が信濃町に対する理解を深め，地域貢献への意識を高めることができた。また，学習成果を信濃町に報告することで，地域との結び付きが深まったと考えられる。

5. 生と性の正しい知識を身につけよう！広げよう！
～地域への発信、地域の仲間作りを目指して～

心理コミュニケーション学科　生井　裕子

① 活動目的

本プロジェクトは、若者が生と性の正しい知識を身につけることを目的とした「思春期ピアカウンセラー養成講座」の開催、そして知識を学ぶ過程での仲間作りや、同年代の青少年に対する啓発活動を行うことの支援を活動の目的とした。

② 方法・内容

長野県で活動する思春期ピアカウンセラーの養成に向けて、「養成講座ベーシックコース（30 時間）」（2025 年 8 月 3 日～6 日　長野県立大学三輪キャンパス）を開催した。今年からは長野県、長野市、長野県立大学の後援を受けて開催することができた。長野県全域で養成講座の広報を行った結果、清泉大学・須坂看護専門学校に加え、南信地域の信州木曽看護専門学校からも参加者があり、計 33 名の学生が参加した。そのうち 11 名の学生がインカレサークル Happy Life★PEERS（HLP）に加入した。また半年後に開催された「養成講座フォローアップコース（15 時間）（2026 年 3 月 4 日～5 日　清泉大学長野駅東口キャンパス）では、清泉大学・須坂看護専門学校から計 7 名の学生が参加した。養成講座では、認定講師や産婦人科医からの講義やワークショップ、養成講座を修了した先輩ピアからのピアサポートや交流等を通じて、若者が生と性の正しい知識を身につけることや、今後の活動に向けて同年代の若者に伝えていくためのスキル形成、地域での仲間づくり等を支援した。

ピアカウンセリング演習

先輩ピアによるグループワーク

③ 成果・結果

2025 年度に実施した 2 回の養成講座について、参加した学生へのアンケートではベーシックコースが 10 段階中の 9.4、フォローアップコースが 10 段階中の 9.7 と、高い満足度を得た。特に、自分の感情に触れられたことや自分らしさを認める機会となったことへの満足が報告された。養成講座の受講後、HLP に加入した学生たちによる今年度の主な地域活動は、１）第 11 回思春期ピアカウンセリング全国大会への参加（11 月 2 日　呉羽ハイツ）２）平均寿命サミットでのブース展示発表（11 月 22 日）３）世界エイズデー（12 月 1 日）に合わせた性感染症に関する啓発活動（長野駅でのチラシ配布・清泉大学や須坂看護専門学校での啓発ブース設置）　4）中学校・高校・養護学校・児童養護施設でのピアエデュケーション（11 月～2 月まで計 5 件）等であった。

平均寿命サミットでのブース展示

高等学校でのピアエデュケーション実施

④ 地域連携事業開発へのモデル事業としての意義と成果について

本事業は、長野県における「思春期ピアカウンセラー養成講座」の持続可能な開催モデルの構築に大きく寄与した。特に、行政の後援を得て講座開催ができたことは、地域一体となった若者支援の枠組み構築に向けて大きな意義があったと考えられる。

成果として、HLP を通じた活発な地域活動により、今年はより多くの学校や地域での啓発が可能となり、支援者ネットワークの強化につながった。さらに、2027 年度の思春期ピアカウンセラー全国大会を長野県で主催することとなったため、本事業で培ったノウハウやネットワーク

6. 地方における途切れない犯罪被害者支援をめざした心理教育、広報啓発活動の取組み

心理コミュニケーション学科　岡本　かおり

警察庁から「地方における途切れない支援の提供体制の強化について（通知）」が令和6年7月18日に発出されたように、犯罪被害者が速やかに被害から回復できるよう、支援体制を強化することは喫緊の課題となっている。長野県は都市部と比較して治安が良い印象があるが、令和5年度の刑法犯認知件数では、凶悪犯は60件、性暴力事件も一定数報告されており、決して少なくない。また、被害者が周囲からの心ない言動やSNSでの誹謗中傷による「二次加害（二次被害）」を受け、回復が遅れてしまうケースもある。

人間学部心理コミュニケーション学科では、司法・犯罪心理学やカウンセリング実務演習等を通じ、困難を抱える人へのサポートの在り方を学ぶ。本プロジェクトでは、犯罪被害者が安心して周囲に支えられ、必要な支援を受けて回復に向かえるよう、学生を対象とした心理教育および広報啓発活動を展開した。

一つは、長野県警察本部被害者支援室および長野犯罪被害者支援センターのご指導・ご協力のもとで実施した、県民向け啓発ポスター案の作成である。「カウンセリング実務演習（心理演習）」の授業において趣旨説明を行い、課題の一つとして募ったところ、約30作品が集まった。一次審査にて3作品が、最終的に1作品が採用された（図1）。気負いのない素朴なイラストと優しい色合いが大変好評で、被害者支援週間（11月末～12月初旬）に合わせ、県内各地に掲出され、啓発の役割を果たした。

次に、岡本ゼミ（3年専門演習IIJ）では、相談窓口と支援者に焦点を当てた活動を行った。3班に分かれ、長野市男女共同参画センター「女性のための相談」、長野県性暴力被害者支援センター「りんどうハートながの」、認定NPO法人長野犯罪被害者支援センター、長野県警察本部被害者支援室へ取材を実施し、その成果を、相談促進と支援者の存在を周知する目的でそれぞれ作成した。図2は携帯電話に貼付できるステッカー、図3・4はポケットティッシュに封入できるサイズのカードである。

さらに、これらのデザインをまとめ。A4クリアファイルも作成した。完成が秋学期末となったため、実際の配布は次年度春学期となるが、これらを身近に置くことで、犯罪被害への偏見を払拭し、安心感を持って相談できる環境づくりを目指す。特に性暴力被害は10代から20代の女性に多いという実態がある。今後は本活動の効果検証を行い、より実効性の高い啓発活動の在り方を探究したい。

図１犯罪被害者を対象にした相談窓口に関する啓発ポスター
（図案制作：心理コミュニケーション学科３年 O.M. さん）

図２「女性のための相談」
（長野市）ステッカー
作成：岡本ゼミ３年アンパンマン班

図３　性暴力被害者支援センター
「りんどうハートながの」
（長野県）ステッカー
作成：岡本ゼミ３年こおりもち班

図４　支援者の姿を伝える
「長野犯罪被害者支援センター」
「警察相談電話」カード
作成：岡本ゼミ３年３班

7.令和６年１月 能登半島地震・令和６年９月 能登半島豪雨

2025年度ボランティア活動報告

看護学科　齋藤　正子

Ⅰ　活動概要

１．目的

１）被災した地域や住民が、1日でも早く元の生活に戻ることができるよう支援する。

２）被災地でのボランティアにより、復興状況や生活状況を理解することができる。

３）被災者の思いを聴き、災害中長期の看護を考えることができる。

２．活動日時

2026年3月20日（金）～3月21日（土）

３．協力団体および受け入れ施設

「春蘭の里」（交流宿泊所こぶし＋農家民宿群）

４．行程

日程	内容（概要）
3月20日（土）	7:00　清泉大学東口キャンパス出発 →レンタカー1台 須坂長野東～上信越道～北陸道経由で富山県高岡市へ 14:00　能登町役場到着（ボランティア証明書発行） 15:00　「春蘭の里」到着 15:10　活動開始　①体育館倉庫にある備品の片付け ②3月21日に活動するチラシの作成 17:00　チラシの配布25軒（自動車で移動） 18:00　チラシ配布終了し、春蘭の里へ戻る 宿泊
3月7日（金）	8:30　「春蘭の里」被災者の健康支援交流会の準備 9:00～11:30　能登町宮地地区住民との交流会 血圧・SPO2測定および健康相談、防災カルタ、 ふまねっと運動、足浴、茶話会 12:00～12:30　交流会終了、振り返り 13:00　帰路へ 能越道富山県高岡市～北陸道～上信越道で須坂長野東へ 19:30　清泉大学東口キャンパス着・解散

５．宿泊先

・3 月 20 日　石川県鳳珠郡能登町宮地 16-9 春蘭の里（事務局℡ 0768-76-0021）

６．参加者

清泉大学 看護学部看護学科 教員 2 名：齋藤正子　長谷川久江

清泉大学 看護学部看護学科 2 年生 1 名、1 年生 2 名：STAR OF LIFE CIRCLE

Y.M, （リーダー）M.N,　Y.M

Ⅱ．活動の実際 ； 復旧期の被災者支援活動

1. 2025 年度「春蘭の里」支援活動

1）体育館倉庫にある備品の片付け

施設の 2 階にある座布団の移動、体育館にある備品を隣の倉庫に移動した。

2）明日のイベントのチラシ作成と配布

写真 1.　チラシ作成の様子

写真 2. チラシを配布する学生のみなさん

2.　2025 年度「春蘭の里」地元住民との健康支援交流会

１）活動日時：3 月 21 日（土）9 時 00 分～11 時 30 分

２）活動場所：「春蘭の里」交流宿泊所こぶし食堂

３）参加者：宮地地区住民 5 名（高齢女性 3 名、高齢男性 2 名）、

「春蘭の里」の方 1 名

４）活動内容および結果

（１）血圧・SPO2 測定および健康相談

・参加者全員の血圧・SP02 値測定を実施した。血圧測定を行いながら、普段の生活や困っていることがないか等お話を伺った。特記するような健康相談はなかった。
・測定値を日頃の体調管理の参考にしてもらえるよう持参した専用用紙に記載し、お渡しした。異常値を呈する参加者はいなかった。

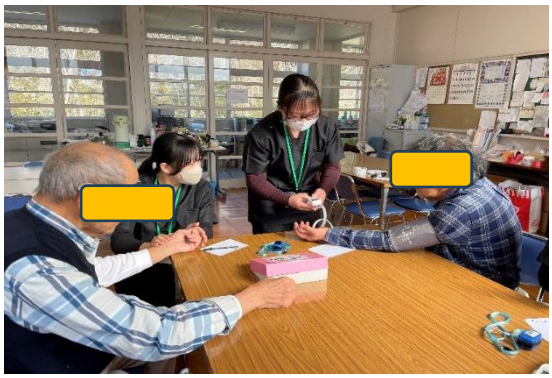


写真 3.　血圧・SP02 測定および健康相談

（2）防災カルタ
・看護学生が作成した防災カルタを全員で行った。4 人 1 組となり、人数が少ないときには学生が入り、2 回行った。
・参加者どうしで譲り合い、救急箱を確認するカルタを読み上げると、住民から「やります」と発言されていた。

写真 4.　防災カルタの様子

（3）ふまねっと運動
・歩行機能の改善、転倒予防、認知症予防のためにふまねっと運動をサポーターの齋藤が行った。
・住民は、真剣にステップの練習を行っていた。参加者の笑い声が聞かれ、楽しそうな様子であった。

・自宅用のふまねっとを新聞紙で作成してお渡しする。仕事を辞めて、太ってきたので散歩などの運動をしたいと思っている。しかし、運動がなかなかできいので、自宅でやってみたいと話されていた。

（4）足浴

・毎回好評な足浴を今回も実施した。参加者一人ずつに学生・教員がつき、足浴を行った。リラックスした時間が過ごせるよう好きな香りがする入浴剤を湯に入れた。各々で雑談をしながら、足が温まるまで湯に足を浸けてもらった。

写真 5.6　足浴の様子

（5）参加者の感想

・笑ったり、話ができたりして良かった。
・ここに来てよかった。
・看護師・助産師の OB の方が見えて、看護師を目指した理由や仕事での経験値をお話してくださった。
・ありがとうございました。
・この地区ではないが、被災者の中に 2026 年 4 月に応急仮設住宅をでなくてはいけないという課題があると話をされていた。

（6）学生の感想

・1 日目の夕方に地域住民の自宅を回り、チラシを配布した。どの家も崖のすぐ下にあり、階段や坂を上らないと自宅に入れなかった。高齢者に配布したが、街灯も少なく暗いので転倒が心配になった。また、玄関に鍵がかかっていない家が多く、防犯が心配になった。
・チラシ配りをしたご夫婦宅で、夫が救急車で搬送されて入院していると聞いた。そのことを春蘭の里の地域リーダーに伝えた。地域の人がふれ合っているからこそ、情報をつなぎ、連携が大切だと思った。

・能登町役場へ行ったが、人が少なかった。人がいない中で高齢者が助け合っていた。顔と顔が触れあうことで、笑顔になっていた。参加することで１日の中で刺激になっていた。
・チラシを昨日配布したが、５名の方が参加してくださった。丁度、お彼岸が重なり、参加者がいないのではないかと思ったが、ふまねっと運動で笑顔が見られ、のりのりだった。身体を動かす参加型のものがあって良かった。

（7）教員の所感

・事前のイベント（チラシの送付）のお知らせが必要だった。また、お彼岸と重なり行事がある日の開催を検討すべきだった。
・学生たちのボランティア活動での態度（あいさつ、言葉遣い、笑顔、礼儀等）が、大変よく好感を得た。
・看護学生として血圧測定や足浴等を実施したが、知識や手技等は（サークル内で？）事前に何度も学び返し、練習を重ねてから臨みたい。
・現地の崩れた山々、補修途中の道路、倒壊したままの建物や石碑などを残っており、これらを見ることができただけでも震災の学びがあった。
・また、微力ながらも被災者の方の復興の力や温かさに触れることができ、継続した支援が必要であることを痛感した。

8. 若者が安心できる居場所ガイドブック制作

情報コミュニケーション学科　武田るい子

１．活動目的

本プロジェクトは、社会的格差が広がり、家庭が居場所にならないような若者が増えている状況を取り組むべき問題として設定した。生きづらさを抱え孤立している若者たちが直接受けられる社会保障制度は少なく、身近な地域に多様な支援資源があっても若者にそうした社会資源の存在は知られていないことが具体的な課題である。そうした若者たちが自分の心をケアしながら社会的自立に向かうためには、多様な同世代の若者たちや地域の大人たちとの出会いがキーになる。そこで、学生たちと共に調査を行い、地域の居場所や支援団体の活動内容や雰囲気を伝えるガイドブックを作成し、困難を抱える若者も在籍している定時制高校などに配布して、若者の利用に供することを目指すものである。

２．活動概要

５月：ボランティア募集を行い、５名（人間学部心理コミュニケーション学科２，３年生）が参加してくれた。

６月～９月：居場所を開設している団体、支援をしている団体への訪問と聞き取り調査の実施。６か所に学生たちが訪問し、ガイドブック掲載の許可を得て情報を収集した。

10 月～11 月：収集したデータの整理と精査

12 月～2 月：CANVA による入力・制作と編集・校正作業

3 月：団体様への掲載内容の確認と最終校正をへて印刷・納品

３．活動の成果

①地域資源を運営する人の思いを知る

団体の概要をただ掲載するデータブックに終わらせないために、代表者がなぜ、その活動を始めたのかという思いを聞いてくることを意識してもらい、訪問した学生は地域で支援する人たちの思いを伝える文章を書くことができた。

②地域で学びを生かす活動方法を知る

大学の授業だけでは出会うことのない福祉や心理の専門性を活かして、NPO で働く人達もおり、様々な組織で働くことができるということ、あるいは組織に属さない働き方をする人達に出会うことができた。

③団体側にとっては、大学生に活動が生まれた背景や思いを話し理解者を増やすことができた。また、定時制高校に配布することで、ニーズがあっても接点のない人たちへのアプローチにつながることが期待できる。

2.　生涯学習部門活動報告

事務局

本学地域連携センターでは、地域貢献事業として「特別講演会」「公開講座」「出張講座」を実施している。

2025 年度の公開講座は、春学期に 26 講座、秋学期に 20 講座を開催し、受講者数は延べ 400 名に達し、地域における生涯学習ニーズの高さが確認された。

生涯学習特別講座では子どもへの性暴力根絶をテーマとした「一人でも多すぎる ～性暴力を許さず、明るい未来へ～」を開催し、一般参加者および学生を含め 67 名が参加した。地域住民とともに社会課題について考える貴重な機会となった。出張講座については、長野市をはじめとする近隣市町村からの依頼を受け、継続的に実施してきた。特に「音楽」や「健康」をテーマとする講座は、地域の高齢者を中心に需要が高い傾向にある。

今後は、講座内容の体系的な見直しを進めるとともに、東口キャンパスの利便性および上野キャンパスの特性を活かした運営を図り、受講者数の増加および満足度の向上に取り組む。これにより、知の拠点としての大学の役割を一層強化し、地域社会への継続的な貢献を推進していく方針である。

世界遺産メキシコシティの歩き方

みんなで待ち望むクリスマス

（1）公開講座

①世界の歴史と文化

情報コミュニケーション学科　村田信行

1．講座概要（2025 年度、全 6 回）

春学期シリーズ「なぜ日本は衰退するのかー原因と処方箋を考える」

第 1 回 5 月 31 日（土）　国際金融史と緊縮・積極財政　受講 17 名

「国の借金」で日本は破綻するのか。国際的な経済と金融の流れを俯瞰し、日本の衰退の元凶を探ります。

第 2 回 7 月 5 日（土）　敗戦と GHQ 占領　受講 18 名

日本衰退のすべての根源は占領政策にある。長らく隠されていたその驚くべき実態をわかりやすく検証します。

第 3 回 7 月 26 日（土）　明治維新の真の意味　受講 12 名

大河ドラマでも人気の明治維新。実は欧米列強との生死を賭けた戦いであった明治・大正時代をリアルに追体験します。

秋学期シリーズ「なぜ日本は衰退するのかー新自由主義的支配の仕組み」

第 1 回 12 月 7 日（土）　いわゆる極右政党の躍進　受講 16 名

欧州を中心にリベラルで新自由主義的な世界の流れが確実に変わり、新興政党が政権を取りはじめています。周回遅れの日本にもその動きが。各国の現状を日本と照らし合わせながら考えます。

第 2 回 2 月 21 日（土）　グローバリズムの隆盛と衰退　受講 29 名

1990 年代から始まった日本の凋落。世界中でなぜ日本だけが衰退するのか。世界を支配してきたグローバリズムとは何か、その見えにくい仕組みをわかりやすく解説します。

第 3 回 3 月 1 日（日）　グローバリズムの罠から生き残る道はあるか　受講 22 名

先の敗戦に続く最大の国難グローバリズムから生き残る道とは何か。現代日本がまず取り戻すべきは、自立した歴史認識と独自の文化伝統を後世に残そうとする国守りの気概ではないか。

２．講座実施の感想

(1) 受講者の概要

受講者は 60 代、70 代を中心に、30 代から 80 代まで幅広い年齢にわたり、6 回の講座でのべ 100 名を超える参加を得た。固いテーマながら、予想外の盛況であった。男性が主力であるが、予想以上に女性の参加も 2 割ほどあった。

(2) 受講者の反応

みなさん勉強熱心で、日本の衰退を我がこととと考える人の多さを実感した。話したいこと、伝えたいことがたくさんあるので、データや図表グラフなど資料も多く、ともすれば情報過多な講座であったと反省するが、2 時間ノンストップの重い内容を前向きに受け取っていただけたと感謝したい。世界や社会の急な変化に連動するように、グローバリズムという言葉も徐々に認知されているようで、受講の感想や質問もいよいよ高度になってきている。

②趣味から始めよう！生成 AI ワクワク活用講座

情報コミュニケーション学科　片瀬　拓弥

１．開催概要

開催日時：2025 年 1 月 25 日（日）13:00～15:00
会　　場：上野キャンパス R107 教室
参 加 者：9 名

２．開催の背景と目的

本公開講座は、本学の学生チーム「清泉ワクスマ・プロジェクト」が「第 1 回 輝け！日本の大学生選手権」において、全国約 30 チームの中から見事最優秀賞を獲得した提案「デジタルデバイドを攻略せよ」の理念を具現化する取り組みの一環として企画されました。近年、インターネットや AI などのデジタル技術の恩恵を受けられる人とそうでない人の間に生じる「デジタルデバイド（情報格差）」が大きな社会課題となっています。本講座は、特に高齢者層における「AI デバイド」の解消を目的としました。単なる操作方法の指導にとどまらず、新しい技術に触れて興味ややる気を引き出す「ワクワク体験」と、

実践的な「スマート講座」を掛け合わせることで、参加者一人ひとりの豊かな「スマートライフ」を支援することを目指しています。

２．講座内容（知識編：AI の進化と未来を知る）

講座は大きく「知識編」と「活用編（実践）」の 2 部構成で行われました。前半の「知識編」では、スライド資料を用いながら生成 AI の急速な進化と社会の現状について紐解きました。最新の生成 AI が共通テストや東大受験科目で満点近い成績を収めるレベルに到達しているという「生成 AI の現実」や、急激な少子高齢化を迎える日本において、労働力不足を補うために国を挙げて AI 人材の育成と Society 5.0 の実現を急務としている背景がデータとともに示されました。また、アラン・チューリングの時代から続く AI の歴史的背景から始まり、現代の生成 AI が「次単語予測器」として構造的に文章を生成する仕組み、そして「シンギュラリティ（技術的特異点）」の到来予測や、人間と AI がどのように分担して働くか（T 型、O 型などの共働モデル）など、未来の社会と働き方についても分かりやすく説明しました。参加者の皆様は、AI がもたらす未来像に時折驚きの声を上げながら、熱心に耳を傾けておられました。

３．趣味に活かす実践ワーク（活用編：ワクワク体験）

後半の「活用編」では、学内のデスクトップ PC や参加者ご自身のスマートフォンを活用し、実際に手を動かして生成 AI を体験する演習を実施しました。本講座の最大の特徴は「どうやって、あなたの趣味に活かすのか？」をテーマに据えた点です。事前に伺っていた参加者それぞれの「趣味」を題材にプロンプト（指示文）を入力し、対話型 AI を活用するワークを行いました。一方的に話を聞くだけの講義ではなく、自分自身の生活や楽しみに直結するテーマで AI を利用したことで、心理的なハードルが大きく下がりました。参加者からは「知ってはいてもできずにいたことができ楽しむことができました。」「学生さんがとても丁寧に対応してくれて有難かったです」といった好意的な声が多く寄せられました。一部の希望者には仮想空間体験（VR）も提供され、会場は終始和やかで活気のある雰囲気に包まれました。

４．成果と今後の展望

本講座は、日常生活に最新テクノロジーをどのように取り入れ、楽しむことができるかを示す絶好の機会となりました。「AI は自分たちには関係のない難しいもの」という先入観を取り払い、「ワクワク体験」を通じて生活者のスマートライフを支援するという当初の目的は十分に達成されたと評価できます。大学の地域公開講座としては、今後も地域社会におけるデジタルデバイド解消に向けた取り組みを推進してまいります。あらゆる世代がテクノロジーの恩恵を享受し、豊かに暮らせる持続可能な社会の実現に向けて、このような地域に根差した実践的な学習の場を継続して提供していく予定です。

当日清泉ワクスマ・プロジェクトの学生がサポート役となり、受講者に教えながら講座を進めた。

③生涯学習特別講座

『一人でも多すぎる～性暴力を許さず明るい未来へ～』

心理コミュニケーション学科　岡本　かおり

11 月 16（日)、子どもへの性暴力根絶を目指す団体「1 is 2 many 子どもへの性暴力を考える Action Plan」から長渡康二さんと中村一也さんをお招きし、「一人でも多すぎる ～性暴力を許さず、明るい未来へ～」と題した特別講座を開催しました。

この講座は 3 部で構成され、第 1 部は中村さんと長渡さんによる講演、第 2 部は岡本を交え、トラウマインフォームドケアに関する座談会、第 3 部は学生サークル「リリーズピア」によるアクティブバイスタンダー（能動的傍観者）に関するワークショップでした。

秋の深まる上野キャンパスに一般 31 名、学生 18 名、学生スタッフ 10 名、教職員 8 名、記者 2 名（計 69 名）が参集し、普段はなかなか話しにくい、しかし、実際に存在する性暴力について、ご一緒に考える時間を持ちました。参加年齢層（図１）をみると 20 代から 70 代まで幅広くご参加いただいたことが分かります。また､感想では､大変良い 20 名(48.8%)、良い 19 名（46.3%）を合わせて、アンケートに回答いただいた方の 95%に満足いただいた様子が分かります（表１)。

アンケートから「よくぞこの手の企画をしかも無料でしてくださいました。ようこそ長野まで来て肉声で話してくださいました。(70 代)」「実際に被害にあったことを話すのはとても勇気がいると思います。今回のお話から、日本で性被害を受ける人が減り、被害を受けていた人が苦しく、つらい思いをしないような法律や活動が増えて欲しいと思いました。リリーズピアのワークも含め普段は何もできない事が多いのですが、勇気をもって行動していきたいと思いました。(20 代)「講演の中にもあった様に日本では性被害は軽く扱われているのは現実かと。もっと認知を一般化し犯罪の抑止につなげていくべきは大人の役割かと思った。(60 代)」など、講演だけでなく、座談会やワークショップといったイベント全体に積極的に参加し、さまざまに感じ、考えていただけたことが窺える感想をいただきました。

お二人からは夢をもって活動していた子ども時代に受けた被害が長い間、影響を及ぼしたこと、時代が動き、社会に向けて告発する決意をしたこと、それによって誹謗中傷を受けたこと、そして「これから育つ子どもたちに同じ思いをさせたくない」という強い願いが語られました。法改正など課題も多く、「一人でも多くの人に関心を持ち続けて欲しい」との言葉に多くの参加者が頷きました。

アンケートには「今の自分に何ができるかを考えていきたい」「ただ聴いて終わりではいけない」との頼もしい感想もいただきました。地域連携センターでは、これからも地域の皆様、学生と共に社会課題に向き合い、私たちに出来ることを考える場を提供していきたいと考えております。

図１　参加者年齢層

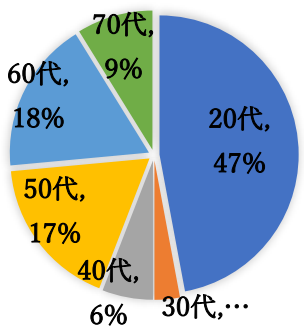


表１　講演会はいかがでしたか

回答	人数
大変良い	20
良い	19
ふつう	2
悪い	0
無回答	0

（２）出張講座

①笑顔で築く信頼関係～ユーモアコミュニケーション講座

こども学科　塚原　成幸

千曲市人権・男女共同参画課からの依頼を受け、「笑顔で築く信頼関係～ユーモアコミュニケーションのすすめ」と題した出張講座を５月 12 日に行った。この講座は、千曲市の男女共同参画セミナーの一環として実施され、一般市民の方と市職員が一緒に研修を受けるといった形式だった。講座は 13：30～15：00 までの 90 分間で行われた。内容は、60 分程度のレクチャーと 30 分ほどのミニワークショップである。参加した 48 名は熱心に耳を傾け、後半の体験では、大きな歓声をあげながら、笑顔の可能性や大切さを実感した。参加者の主な感想は以下の通り。（主催者より提供）

＜講座の感想（抜粋）＞

・笑う門には福来る」ということわざもありますが、笑うことで本当に良いことが起こったり、良い方向に進んでいくことがあるのだろうなと強く感じました。

・ユーモアが人間関係を円滑にしてくれると聞いて、まさにそのとおりだと思いました。ユーモアコミュニケーションを上手に取り入れて、周りの人と良い関係を築いていきたいです。

・普段、大人二人の生活の中では笑いが出ない日が多いのですが、セミナーで学んだことを家庭や友人等と話し、実践していきたいです。

・笑うことは人間にしかできないとはまさにその通りですので、人として生きるからにはこれからも笑うことを大切にしていきたいです。

＜講座の様子＞

②社会問題とその解決を考える『ストリートチルドレン』

こども学科　小松　仁美

12 月 7 日（日）、小川村公民館にお招きいただき、「社会問題とその解決を考える『ストリートチルドレン』」と題した出張講座を行った。

小川村では「おがわ熟年大学」として、地域の方々を対象とした多数の講座が開催されている。地域の方が集い、学ぶことのできる仕組みとなっており、多彩な講座が魅力である。本講座は、その熟年大学の一講座として、12 月 10 日の世界人権デーを最終日とする人権週間の取り組みの一環として開講された。

講演依頼を受けた際、長野県の風光明媚な山村に暮らす方々が、果たしてメキシコのストリートチルドレンの問題にどのような関心を持っているだろうかと不安を抱いた。しかしそれは杞憂に終わった。当日は、運営の方から、熟年大学の受講生に加えて一般市民の方も足を運ばれているとうかがった。日頃の活動が村民の高い人権意識と多様なテーマに対する関心を育んでいるのだと強く感じた。

講座では、最初に、身近なコーヒーやトマトジュース、チョコレート、回転ずしのイカなど、普段は気に留められない食品を取り上げた。朝にコーヒーを飲んでこられた方や、お孫さんとチョコレートを召し上がる方などに問いかけながら、それらの商品の多くがメキシコから輸入されていると伝えた。

そうなんだ、知らなかったといった感想が浮かんだところで、それらの生産過程で生じている児童労働や貧困問題に触れた。歴史的な経緯に触れ、具体的な統計データを示しながら、子どもの貧困の一形態であるストリートチルドレンの問題へと話を進めた。

子どもたちが路上で生活や労働に至る背景や実際の暮らしぶり、支援の内容、そして支援を受けた子どもたちの未来がどのように変化するのかについて、写真や実話を交えて具体的に紹介した。支援によって立ち直る子どもたちの姿に胸をなでおろす方や、「そのような支援があってよかった」と声をかけてくださる方がいる一方で、支援がうまくいかないケースや、支援の量が絶対的に不足している現状、困難な事例についても率直に伝えた。

特に、定住施設での支援を受けて就職して自立生活を送っていた元ストリートチルドレンのシングルマザーが、勤務先の倒産をきっかけに再び困難な状況へと追い込まれた事例については、多くの受講者が目を潤ませ、「このようなことがあってはならない」と強い憤りを示された。支援中のかかわり、彼女の成育歴や努力、母親として子どもの健全な成長を願い、自身が困難な状況に陥っても子どもの生活を守るために施設支援へつないだことなど、生涯を終えるまでの基軸を丁寧に紹介した。支援者としての思いや、ともすれば非行少年のようにとらえられがちなストリートチルドレン一人ひとりが人間としての尊厳をもって生きてきたことが伝わった。

内容は人の生死に関わる部分も含み、決して軽いものではなかったが、講話中、村民の方々は集中してメモを取りながら熱心に耳を傾け、うなずいたり目頭を押さえたりしながら聞いてくださった。日頃の講演では女性参加者が多いが、今回は村主催ということもあり男性の参加も多く、国際的な子どもの社会問題について真剣に向き合ってくださった。

質疑応答や感想の時間には、男女を問わず「このような問題にもっと目を向けるべきだ」「知った以上、何かを変えなければならないと思った」といった意見が寄せられた。また、「小学校などでもこうした講話を行うべきではないか」との提案もいただいた。閉講後も、地域の方々から直接お声をかけていただいた。地域にも世界の貧困や子どもの問題に目を向ける方々がいらっしゃり、本講座を実施することで、そうした方々の学びと連帯の機会を保障していく一助となったのではないだろうか。地域に開けた大学、地域の方々の学びの機会保障という点で、わずかながらではあるが本学の社会的役割の一端を担えたように思う。これからも、機会があれば、地域の取り組みに参与していきたい。

(4) 生涯学習講座実施状況

公開講座会場別講座数・受講者数の推移　(直近 5 年間)

		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
講座数	長野市生涯学習センター	0	0	0	4	0
	東口キャンパス	18	16	20	19	24
	上野キャンパス	7	3	10	19	22
	その他	4	0	0	0	0
(件)	合計	29	19	30	42	46
受講者数	長野市生涯学習センター	0	0	0	30	0
	東口キャンパス	135	168	255	282	287
	上野キャンパス	24	19	59	316	211
	その他	8	0	0	0	0
(人)	合計	167	187	314	628	498

■映画上映会入場者数の推移

(人)

映画上映会		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
		不開催	(かば)			
	受講者数	0	64			

■特別講演会受講者数の推移

(人)

講演会		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
				安田菜津紀氏	山村武彦氏	長渡康二氏 中村一也氏
	受講者数			104	60	67

①公開講座実績一覧

＜春学期＞

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
1	IPA 主催　基本情報技術者　科目 A 免除講座 6 か月オンデマンド講座　オリエンテーション	片瀬　拓弥	東口	5 月 31 日	4
2	世界の歴史と文化－なぜ日本は衰退するのか①	村田　信行	東口	5 月 31 日	19
3	人々は何を想って唄ってきたか ～アメリカンフォークソングの世界～	中村　洋一	上野	不開講	0
4	21 世紀を生きる：グローバルな時代に何を学ぶか	中村　洋一	上野	不開講	0
5	笑顔を引き出す！！ユーモアコミュニケーション体験講座	塚原　成幸	上野	6 月 21 日	10
6	外国人が見た NAGANO　旅を通じた異文化理解	森本　佑子	東口	7 月 5 日	9
7	世界の歴史と文化－なぜ日本は衰退するのか②	村田　信行	東口	7 月 5 日	16
8	ビジネスコミュニケーション講座　電話応対編	森本　佑子	上野	不開講	0
9	文化と歴史を知れば 100 倍楽しめる！ 世界遺産　メキシコシティの歩き方	小松　仁美	東口	7 月 26 日	12
10	宙わたる教室のリアル：定時制高校の教育実践の意味	岡 部 敦 ・ 武田るい子	東口	7 月 26 日	6
11	世界の歴史と文化－なぜ日本は衰退するのか③	村田　信行	東口	7 月 26 日	12
12	発達に課題を抱える子ども理解＜感覚と遊び＞	小松　仁美	上野	7 月 28 日	20
13	「幼児の運動能力を育む！実践的あそび講座」	中村 真由美	上野	7 月 28 日	4
14	ラテン語入門①辞書の引き方・名詞	神門 しのぶ	上野	8 月 4 日	5
15	ラテン語入門②sum 動詞・前置詞	神門 しのぶ	上野	8 月 5 日	6
16	ラテン語入門③動詞・副詞	神門 しのぶ	上野	8 月 6 日	6
16	ラテン語入門③動詞・副詞	神門 しのぶ	上野	8 月 6 日	6
17	「考える」を考える　～前編～	中島　琢郎	上野	不開講	0

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
18	マーケティング入門	中島　琢郎	上野	8 月 6 日	7
19	紙芝居でコミュニケーション！！かみしばい演者養成講座 2025	塚原　成幸	上野	9 月 7 日	12
20	「最新の保育施策にみる近未来の＜保育のすがた＞－現場の視点で考える－」	西山　薫	上野	8 月 23 日	18
21	「子どもの願いをかなえるあそび」 ～子どもの主体性を潰さない教材研究～	碓井　幸子	上野	8 月 23 日	20
22	保育の質向上のための音楽的表現を学ぶ 「こどもの歌唱表現と歌唱教材」	山﨑　浩	上野	8 月 23 日	9
23	看護研究スタートアップ講座　研究成果の活用	舟島 なをみ	東口	6 月 6 日	6
24	看護研究スタートアップ講座「看護研究の基礎知識研究疑問の明確化」	内山 明子	東口	6 月 6 日	7
25	看護研究スタートアップ講座「先行研究の調査と文献の種類について」	石原 千晶	東口	6 月 30 日	6
26	看護研究スタートアップ講座「文献検索演習」	田村　栄子	東口	6 月 30 日	6
27	看護研究スタートアップ講座「研究方法：量的研究」	安齋 由貴子	東口	7 月 11 日	13
28	看護研究スタートアップ講座「研究方法：質的研究」	北村 千章	東口	7 月 11 日	10
29	看護研究スタートアップ講座「研究目的の明確化～研究計画書の作成へ」	北村 千章	東口	7 月 25 日	10
30	看護研究スタートアップ講座「研究倫理」	山崎 章恵	東口	7 月 25 日	10
小計				26 講座	263

〈秋学期〉

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
1	働きやすい環境作りに活かすコミュニケーションスキル	長谷川　孝子	上野	11 月 2 日	15
2	実習生が意欲的に取り組む保育実習	碓井　幸子	上野	11 月 2 日	12

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
3	子どもの造形表現の理解と援助	渡邉　智之	上野	11 月 2 日	5
4	聖書を読んでみよう！―聖書のクリスマスの場面を読み解こう―	稲葉　景	東口	12 月 7 日	9
5	みんなで待ち望むクリスマス―クリスマスリースを作りながら、クリスマスの本当の意味を学びましょう！―	稲葉　景	東口	12 月 7 日	13
6	世界の歴史と文化「なぜ日本は衰退するのかー新自由主義的支配の仕組み」①	村田　信行	東口	12 月 7 日	16
7	世界の歴史と文化「なぜ日本は衰退するのかー新自由主義的支配の仕組み」②	村田　信行	東口	2 月 21 日	29
8	世界の歴史と文化「なぜ日本は衰退するのかー新自由主義的支配の仕組み」③	村田　信行	東口	3 月 1 日	21
9	旅するメキシコ・スペイン語メキシコシティの歩き方　～歴史・文化・社会問題に触れながら～	小松　仁美	上野	1 月 17 日	6
10	子どもの行動を理解し、親子で楽しく過ごすヒント「ペアレントトレーニング」	小松　仁美	上野	不開講	0
11	働く人のためのライフスキル・ワークショップ―ストレス対処編―	横山 孝行	上野	1 月 17 日	4
12	働く人のためのライフスキル・ワークショップ―効果的コミュニケーション編―	横山 孝行	上野	1 月 25 日	4
13	趣味から始めよう！生成 AI ワクワク活用講座	片瀬　拓弥	上野	1 月 25 日	9
14	ラテン語で“アヴェ・ヴェルム・コルプス” ①	神門 しのぶ	上野	1 月 29 日	10
15	ラテン語で“アヴェ・ヴェルム・コルプス” ②	神門 しのぶ	上野	1 月 29 日	9
16	ラテン語で“アヴェ・ヴェルム・コルプス”③	神門 しのぶ	上野	1 月 30 日	9
17	ラテン語で“アヴェ・ヴェルム・コルプス”④	神門 しのぶ	上野	1 月 30 日	11
18	「考える」を考える　～前編～	中島　琢郎	上野	不開講	0

No	講座名	教員名	場所	実施日	参加数
19	マーケティング入門	中島　琢郎	上野	不開講	0
20	21 世紀を生きる：グローバルな時代に何を学ぶか	中村　洋一	東口	2 月 21 日	14
21	人々は何を想って唄ってきたか　～アメリカンフォークソングの世界～	中村　洋一	東口	2 月 21 日	17
22	「映画でひもとく『教皇選挙』――コンクラーヴェの世界と現代へのメッセージ」	稲葉　景	東口	3 月 1 日	15
23	「イースター」って何の日？	稲葉　景	東口	3 月 1 日	7
小計				20 講座	235
春学期・秋学期合計				46 講座	498

②出張講座実績一覧

No	テーマ	教員名	主催団体	実施日
1	笑顔で築く信頼関係	塚原　成幸	千曲市人権・男女共同参画課	5 月 12 日
2	紙芝居が大好きになる見せ方・演じ方	塚原　成幸	ながのこども館	7 月 28 日
3	音楽リフレッシュ	山﨑　浩	中野市西部公民館	8 月 4 日
4	音楽リフレッシュ	山﨑　浩	木島平社会福祉協議会	8 月 20 日
5	音楽リフレッシュ	山﨑　浩	古牧地区住民自治協議会	9 月 6 日
6	笑顔で築く信頼関係	塚原　成幸	中野市　人権・男女共同参画課	9 月 25 日
7	音楽リフレッシュ	山﨑　浩	かがやきひろば篠ノ井	10 月 2 日
8	ふまねっと体操	齋藤　正子	更埴地域シルバー人材センター	10 月 23 日
9	睡眠の心理学	寺門　正顕	かがやきひろば篠ノ井	10 月 29 日
10	ストリートチルドレン	小松　仁美	小川村公民館	12 月 7 日
11	音楽リフレッシュ	山﨑　浩	かがやきひろば篠ノ井	2 月 18 日
12	睡眠の心理学	寺門　正顕	小川村公民館	2 月 19 日
合計				12

３．地域活動部門活動報告

事務局

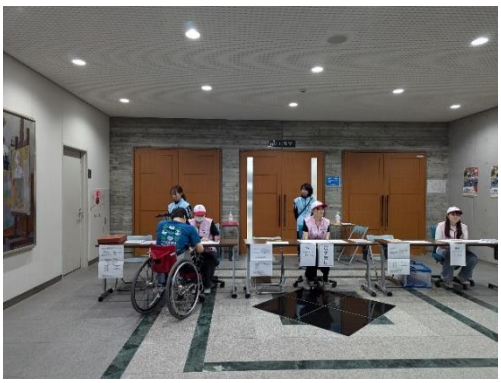
地域活動部門は、主にボランティア活動（イベント参加を含む）と地域との交流活動が中心となる部門である。

ボランティアに関しては、地域の企業や団体等から学生ボランティアの依頼をセンターが受け付け集約し、学生へボランティア情報を提供している。学生は大学からの一斉配信でボランティア募集に関する情報を閲覧できる。また、センターのカウンターに来て、職員と話しながらファイルに綴じてあるボランティア募集を見ることもできる。センターは、学生がボランティアに応募し、実際に行い、報告書を提出するまで、地域と学生をつなぐ総合窓口としての役割を担っている。

センターは学生の地域活動を支援するため、①ボランティアの紹介②Let’ Try ボランティア支援制度（後述）の申込み、③単位認定に関する業務、④活動全般にわたる相談など、学生が安心してボランティアに参加できる支援や体制を整えている。

本学のボランティア活動は、建学の精神を具体的に体現する実践的な学びの場として位置づけられており、学生が自主的に参加している。学生は地域や多様な立場の人々と関わる中で、社会課題への理解を深めるとともに、思いやりや責任感、協働する力を身につけている。

また、ボランティア活動に参加することで、学生自らが考え行動する力を養い、大学での学びを社会の中で実践する経験を積んでいる。近年はボランティアの担い手不足や高齢化が進んでおり、若者の参画への期待は一層高まっている。地域イベントや企業・団体からのボランティア依頼も増加しており、学生の参加人数も着実に回復しつつある。これらの活動を通じて、学生の成長と地域貢献の双方を実現する取り組みとして、ボランティア活動は本学の教育の重要な一環となっている。



(2) Let’s Try ボランティア活動支援

地域連携センター

本事業は、学生の自主的な地域活動を支援する目的で作られた事業である。学生が企画・実施する活動、または地域の団体や人々と協働で行う地域活動が条件である。募集を行い、希望する個人または団体が応募、地域連携センターにて審査する。採択された活動には、活動費の一部を支援している。

今年度は以下の 3 件の活動が採択された。

活動名	『チャイルドラインながの』受け手ボランティア
内容	チャイルドラインながのでの「受け手ボランティア」の養成講座の研修を受け、実際に子どもたちの相談を受けるボランティア活動を行う
連携団体	NPO 法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト チャイルドラインながの

活動名	住吉祭りボランティア
内容	障がい者支援施設の利用者と、地域の来場者との交流を行う住吉祭りの運営補助。障がい特性がゆえに日常と異なる状況に不安や困難さを抱えた利用者さんが落ち着くまで一緒にいたり、来場者の方々と不安なく交流できるよう見守りを行ったりしながら、来場者の誘導やお祭りを運営される職員の補助を行った。
連携団体	社会福祉法人上田明照会 ともいきライフ住吉

活動名	犬と歩けば。。。プロジェクトペット防災キャンプ
内容	NPO 法人家庭犬育成協会パドック NAGANO 主催の「犬と歩けば。。。プロジェクト」ペット防災キャンプの補助。この活動に参加する小学生とその保護者と一緒に避難先での食事作りのシミュレーションをする。
連携団体	NPO 法人家庭犬育成協会パドック NAGANO

Let’s　Try ボランティア活動報告①

活動名：チャイルドラインながの受け手ボランティア
代表者：心理コミュニケーション学科 3 年　T.M、Y.K
活動メンバー：心理コミュニケーション学科 3 年　T.M、Y.K

養成講座実施期日

2025 年 9 月 6 日／9 月 13 日／10 月 4 日／10 月 11 日／11 月 15 日／11 月 29 日

活動場所: もんぜんぷら座

活動内容と成果

活動内容

6 日間の養成講座を受講した。

感情のコントロール、傾聴の基本、子どもたちの現状、子どもの権利、思春期の子どもの発達と心のゆれ、死にたい気持ちに寄り添う、思い込みに気づく、受けての心得、ロールプレイや事例検討等を行い、受けてとしての学びを得た。

そして、これから電話の受け手として、チャイルドラインの活動に参加する。

チャイルドラインは、小学生から高校生までの 18 歳の子供を対象に、話を聴く活動を行っており、チャイルドラインながのは、主に電話での活動を行っている。

子どもについて学びたいという意欲をもって学びに行ったが、想像以上に大きな成果を得られたと感じた。

まず 1 つ目に学んだことは、子どもたちが実にさまざまな悩みを抱えているということである。虐待、友人関係、勉学、家族関係など、置かれている状況や場面は多岐にわたり、それぞれが重い思いを抱えていることを知った。

2 つ目に受け手として学んだことは、共感やねぎらいの姿勢の大切さである。「あなたは悪くないよ」「話してくれてありがとう」といった言葉を伝えることは、子どもが安心して話すために欠かせないと感じた。また、共感やねぎらい、悩みを引き出すためには、相手の気持ちを感じ取る力や、丁寧に傾聴する姿勢が必要であると考えた。

3 つ目に、傾聴することの難しさだ。傾聴することは想像以上に難しく、普段の会話ではつい自分の意見を言いたくなってしまう。だが、傾聴が求められる場面では、自分の考えを押し出してはならず、その点に難しさを感じた。

4 つ目に発言する側と受け取る側での言葉の解釈の違いだ。話す側の意図と、それを受け取る側の受け止め方は必ずしも一致しないということも学んだ。言葉の選び方や言い方ひとつで、相手の感じ方は大きく変わるため、支援の場面ではより慎重なコミュニケーションが求められると実感した。

5 つ目に、自分自身の感情や得意・不得意に向き合うことの重要性についても学ぶことが

できた。自分のどういった特性が聞き手に影響しているのか、状況について振り返ったり、またもし自分が聴いていてしんどいと感じたときにどういったことが負担に感じたのか、セルフケアの面でも振り返ることが大切なのだと分かった。

6つ目に、援助職に就くうえでの将来の学びにもなったと感じている。ロールプレイや周囲の方との意見交換を通して、大学で学んでいない内容の方が多く、自分が知っていることは決して広くはないのだと実感した。同時に、自ら学び続けていく姿勢の重要性についても教えていただいた。

最後に、実際に受け手として活動されている方のお話を聞く機会も多く、受け手をすることへの想像と現実との間にはギャップがあることを実感した。講座を受けて終わりではなく、受け手を始めてからも学び続けていく必要があるのだと感じている。

Let’s　Try ボランティア活動報告②

団体名：なんでもやります
活動名：住吉祭ボランティア
代表者：幼児教育科２年 R.S
活動メンバー：幼児教育科２年４名　A.K, Y.K, R.S, S.T

実施期日　2025 年 10 月 18 日
活動場所　ともいきライフ住吉
ともいきライフ住吉は障害者支援施設で、さまざまな障害を抱えていらっしゃる方々が入所している施設である。比較的ご高齢の方々が多い。

活動内容と成果
活動内容
住吉祭の準備と片付けと利用者さんの見守り
住吉祭には利用者のご家族や地域の小学生などが来ていて地域の方々との交流もあった。
成果
利用者さんと過ごす時には何に気をつければ良いのか、また職員さんは何に気をつけていらっしゃるのかを実際に見て実践させていただいたり、考えたりすることで障害に対する理解がより深まった。
実習でもお世話になり、久しぶりに施設に行くと利用者が「塗り絵やった？」「この間も来てたよね」と声をかけてくれて嬉しかった。

障害に対してのイメージが変わった。偏見を持たずにまずは関わることの重要性を学んだ。装飾の工夫や利用者と一緒に作り上げるお祭りにこそ意味があると感じることができた。

Let’s　Try ボランティア活動報告②

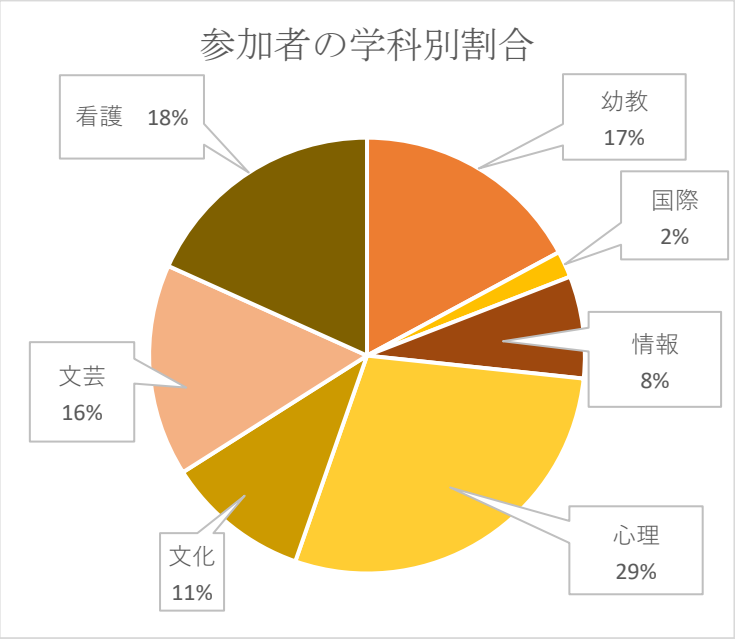
活動名:「犬と歩けば。。。プロジェクト」ペット防災キャンプ
代表者:幼児教育科２年　H.M.
活動メンバー　幼児教育科２年３名　M.N., H.M., K.Y.

実施期日　2025 年 10 月 18 日
活動場所　戸隠キャンプ場
活動内容と成果
活動内容
NPO 法人家庭犬育成協会パドック NAGANO 主催の「犬と歩けば。。。プロジェクト」ペット防災キャンプの補助をした。この活動に参加した小中学生とその保護者と一緒にペット同行避難と食事作りのシミュレーションを行った。この前段階として、9 月 13 日に子どもが犬への接し方を学ぶためのふれあい活動にも参加した。
成果
・犬とのふれあいでは、子どもたちが犬に接する際の注意点に気をつけながら、楽しく活動することができた。私たちとも顔見知りになっていたので、防災キャンプでもリラックスして共に活動できたと思う。楽しく活動する中に学びもあり良かった。
・災害時のペット同行避難について知るきっかけとなった。
・非常時は、協力し合うことが大切だが、この活動では初対面の人ともコミュニケーションをとりながら活動したり周りを見ながら臨機応変に対応したりするなど、これまでに培ってきた力を発揮することができた。
・ペット防災キャンプは下支えするスタッフが必要であるが、その役割を担い、スムーズなイベントの進行を助けることができた。

（2）２０２５年度ボランティア活動参加状況

学科学年別年間参加延べ人数　　（人）

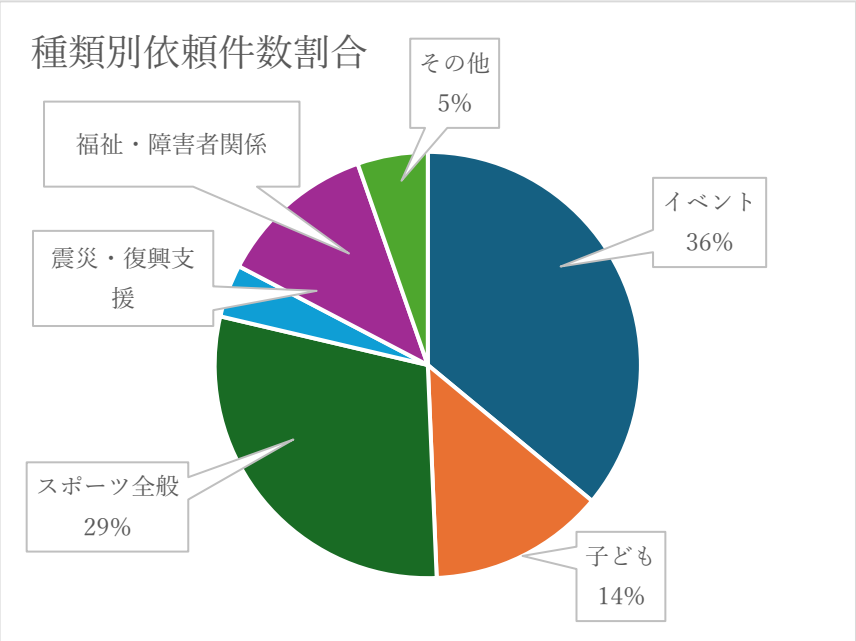
所属	参加延べ人数	学科合計
こども 1 年	20	
幼教 2 年	41	61
国際 2 年	7	7
情報 COM 1 年	24	
情報 COM 3 年	3	27
心理 1 年	24	
心理 2 年	14	
心理 3 年	50	
心理 4 年	14	102
文化 2 年	25	
文化 3 年	10	
文化 4 年	3	38
文化芸術 1 年	56	
文化芸術 3 年	0	56
看護 1 年	19	
看護 2 年	16	
看護 3 年	20	
看護 4 年	10	65
合計	356	356



◆ボランティア種類別状況

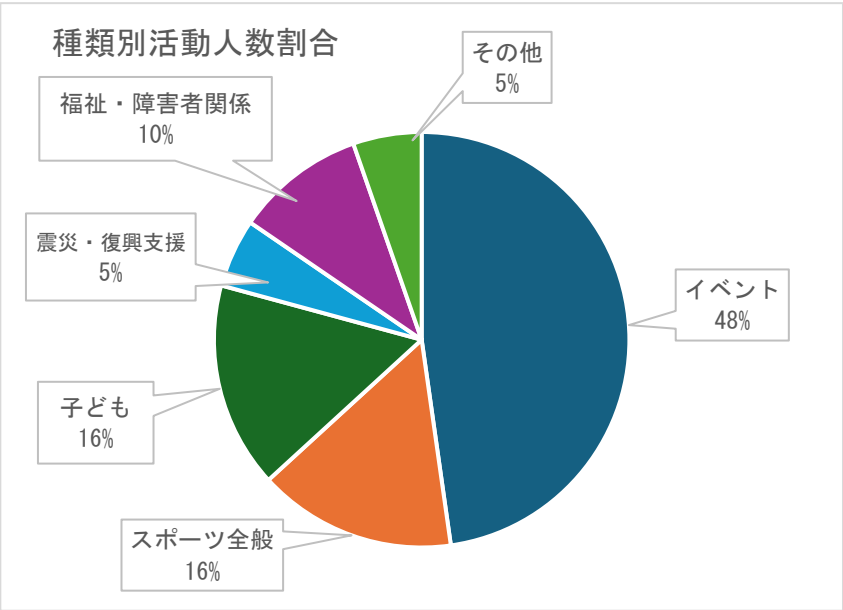
〈活動依頼件数〉　　（件）

区分	件数
イベント	27
子ども	10
スポーツ全般	22
震災・復興支援	3
福祉・障害者関係	9
その他	4
合計	75



〈活動人数〉（人）

区分	延べ人数
イベント	170
スポーツ全般	55
子ども	57
震災・復興支援	19
福祉・障害者関係	36
その他	19
合計	356



ボランティア活動参加人数推移

	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度		2025 年度	
所属	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計	活動人数	学科合計
幼教 1 年	113		9		4		28			
こども 1 年									20	
幼教 2 年	13	126	2	11	16	20	7	35	41	61
国際 1 年	41		18		20		9			
国際 2 年	13	54	2	20	8	28	2	11	7	7
情報 1 年									24	
情報 3 年									3	27
心理 1 年	33		19		42		10		24	
心理 2 年	28		4		34		25		14	
心理 3 年	12		8		13		34		50	
心理 4 年	7	80	9	40	2	91	4	73	14	102
文化 1 年	5		23		28		35			
文化 2 年	4		13		10		33		25	
文化 3 年	4		2		5		8		10	
文化 4 年	1	14		38	1	44	1	77	3	38
文芸 1 年									56	
文芸 3 年										56
看護 1 年	76		21		45		21		19	
看護 2 年	13		5		6		17		16	
看護 3 年	3				1		4		20	
看護 4 年		92		26	0	52	7	49	10	65
合計	366	366	135	135	235	235	245	245	356	356

（3）２０２５年度　ボランティア活動実績

No.	名称	実施日	こども	幼教	国際	情報	心理	文化	文芸	看護	総計
1	長野車いすマラソン大会	4月19日				2	2			4	8
2	第27回長野マラソン	4月21日		4			3			3	10
3	NAGNAO善光寺よさこい	5月4日	1	2		3	2	3		2	13
4	かえで通りこども食堂	通年	2	2	1					2	7
5	イースターエッグフェスティバル	4月26日					1	1			2
6	長野地区障がい者スポーツ大会	5月24日				2	1				3
7	4/6　長野パルセイロ試合	4月6日					1		1		2
8	4/13　長野パルセイロ試合	4月13日	1				3			2	6
9	放課後子ども総合プランアドバイザー	通年	1	3	1		17			4	26
10	小布施見にマラソン	7月13日	1				1		3	4	9
11	学習チューター	通年				1	3				4
12	5/3　長野パルセイロ試合	5月3日					1				1
13	長野県警察大学生ボランティア	通年	1	1			10				12
14	ながの獅子舞フェスティバル	5月3日						20			20
15	びんずる市	5月10日							9		9
16	犀川緑地清掃活動	5月18日				2					2
17	びんずる市	6月14日							10		10

No.	名称	実施日	こども	幼教	国際	情報	心理	文化	文芸	看護	総計
18	第10弾ながとよマルシェ	6月21日	1				2		4		7
19	小諸ツリーハウスイベント	5月24日									0
20	こども身体づくり教室	6月13日					1				1
21	子どもたちの未来へ国際助産師の日	6月28日								7	7
22	ものづくりフェア千曲マッチングイベント	6月6日				1	3	2			6
23	“居場所”ガイドブック制作者	6月~									0
24	こども身体づくり教室	6月27日	2								2
25	センキョ割普及プロジェクト	通年				1					1
26	びんずる市	7月12日							1		1
27	ナガノカルチャーフェスタ2025	8月30~31日					7				7
28	7/19 長野パルセイロ試合	7月19日					1				1
29	りんご音楽祭	9月27~28日	1		1	2	1	1	3	1	10
30	長野びんずる	8月2日					5	1	1		7
31	びんずる市	8月9日				2			6		8
32	リレーフォーライフジャパン2025	9/14~15日								1	1
33	8/16　長野パルセイロ試合	8月16日					1				1
34	びんずる市	9月13日							1		1

No.	名称	実施日	こども	幼教	国際	情報	心理	文化	文芸	看護	総計
35	令和7年度長沼ニュースポーツ大会	9月20日									0
36	柳原いきいきスポーツ	9月28日	1			2		1			4
37	8/30　長野パルセイロ試合	8月30日							1		1
38	9/13　長野パルセイロ試合	9月13日									0
39	長野びんずる燈送衆	8月2日					1				1
40	災害救護訓練ボランティア	11月8日								14	14
41	ハーモニー夢まつり	10月25日					1				1
42	須坂ランニングフェス	10月12日									0
43	Halloween2025in戸倉上山田温泉	10月26日	1	2							3
44	おれんじミーティング	10月5日				1	1			10	12
45	けいあい祭り	10月18日	1	3			4				8
46	ごん太祭り	10月25日									0
47	若槻公民館　あいあい文化祭	11月8日					2		2		4
48	ハートのまち（市）ちくま野外コンサート	10月26日									0
49	災害対応訓練	10月25日								5	5
50	NAGANOスポーツフェスタ	10月19日				2	3				5
51	ながとよマルシェ	10月18日									0
52	住吉まつり	10月18日		4							4
53	10/4長野パルセイロ試合	10月4日					3				3

No.	名称	実施日	こども	幼教	国際	情報	心理	文化	文芸	看護	総計
54	10/13 長野パルセイロ試合	10 月 13 日			1		1				2
55	自転車安全利用啓発ボランティア	11 月 7 日					2		2		4
56	10/25 長野パルセイロ試合	10 月 25 日			1				1		2
57	11/8 びんずる市	11 月 8 日			1	1					2
58	若槻総フェスタ	10 月 16 日						8	8		16
59	11/2 長野パルセイロ試合	11 月 2 日			1		1				2
60	11/15 長野パルセイロ試合	11 月 15 日					1				1
61	びんずる市	12 月 13 日					6				6
62	ゆたかのスポコミ東北ロードレース大会	12 月 7 日	1			1					2
63	遊びで育てるパパママ教室	1 月 31 日					1			1	2
64	11/29 長野パルセイロ試合	11 月 29 日					1				1
65	かえで通りこども食堂	12 月 5 日	1								1
66	イオンモール須坂クリスマスマーケット	12 月 12 日		20							20
67	千曲万博	1 月 25 日				1	1				2
68	RDD2026NAGANO	2 月 28 日					1	1		5	7
69	長野灯明まつり	2 月 2 日	2			3	1				6
70	こども夢の商店街	3 月 21 日	2								2
71	2/21 長野パルセイロ試合	2 月 21 日					1		1		2
72	2/28 長野パルセイロ試合	2 月 28 日					1				1

No.	名称	実施日	こども	幼教	国際	情報	心理	文化	文芸	看護	総計
73	3/14 長野パルセイロ試合	3月14日					1				1
74	ボランティアのつどい	3月6日							1		1
75	蚊里田八幡宮 春季例大祭	3月中旬					2		1		3
合計			20	41	7	27	102	38	56	65	356